

公開実用 昭和63- 8969

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 8969

⑮ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公開 昭和63年(1988)1月21日

B 41 K 1/10

6863-2C

審査請求 未請求 (全 頁)

⑰ 考案の名称 日付印

⑱ 実 願 昭61-103828

⑲ 出 願 昭61(1986)7月7日

⑳ 考 案 者 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畑区一枝2-5, 10-308

㉑ 出 願 人 佐々木 福三 福岡県北九州市戸畑区一枝2-5, 10-308

明 細 書

1. 考案の名称 日付印

2. 実用新案登録請求の範囲

ケース本体1の開口上面の外周に摺動枠2を上
下動自在に挿嵌軸支し、ケース本体1の内部に上
下に若干移動可能に門型枠3を組付け、該門型枠
3の先端部間に架設した受台4と中央部に架設さ
れたダイヤル軸5に遊嵌した複数の日付変更ドラ
ム6との間に複数本の無端印字ベルト7を張架し
てなる日付印において、摺動枠2上面に軟質弾性
材8を介して固定印字体9を取り付け、且つ受台
4に複数個の切欠部10を互い、異なる方向にその開
口部を形成するように設けることを特徴とする日
付印。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この考案は、「受付日」や「氏名」などの文字
を押印する固定印字体と該当の「年月日」を押印
する無端印字ベルトを備えた日付印の改良に関す
る。

(従来 of 技術)

従来、この種の日付印は、日付印の方向が紙面に対し垂直にならずに若干左右前後に傾いたまま押印してしまった場合等、印字面と紙面が所要通りに合わなかった時、押印の一部が欠けてしまうという不具合があり、押印時に注意集中を要した。このため同様の理由により他種の印には、固定印字体をスポンジ等の軟質弾性材を介して貼付したり、実公昭30-13407号公報に示されるように無端印字ベルトを支承する受台部にスポンジ体を内装し上下動自在とならしめる案が知られている。

(本案が解決しようとする問題点)

この種の日付印に従来の技術を応用した場合、スポンジ体の特性上、無端印字ベルトが常に正確な位置復元を行なえず構造が複雑で大型となり、又耐久性に欠ける傾向があった。

本案は前記の欠点を解決し、構造および製作が簡単で耐久性があり、押印時に紙面に対し若干左右前後に傾いても所要通りに固定印字面および

可変印字面を自動的に紙面に倣わせることが可能な日付印を提供することを目的とする。

(問題点を解決するための手段)

以上のような問題点を解決するために、この発案は次のような構成としてゐる。

先づ、固定印字面12を紙面に倣わせるために、図示する如く、ケース本体1の開口上面の外周に摺動枠2を上下動自在に挿嵌軸支し、該摺動枠2上面に固定印字枠11を装著し、その内側に軟質弾性材料8を介して固定印字体9を取り付ける。

一方、可変印字面13を紙面に倣わせるために、ケース本体1の内部に上下に若干移動可能に門型枠3を組付け、該門型枠3の先端部間に受台4を架設し、中央部にダイヤル軸5を架設し、該ダイヤル軸5に複数の日付変更ドラム6を遊嵌し、この間に複数の無端印字ベルト7を張架し、受台4の所要位置に次の図に例示する如く複数の凹の切欠部10を特にその開口部が互に違いの方向になるように形成する。

摺動枠2、固定印字枠11、軟質弾性材料8および

固定印字体9の各々中央部には透孔17を形成し、無端印字ベルト7の上部にある可変印字面13が突出可能にする。

軟質弾性材は其の両面に接着剤を塗布したスポンジ体等を用いても其の他の軟質弾性体を使用してもよい。

又、後台4は切欠部10を互い違いの方向に其の開口部が位置するよう20以上設ける必要があるが、合成樹脂等を使用して射出成型等の方法により簡単に製作することが出来る。

尚、二二ではいきさつ上、固定印字枠11を用いるように説明したが、該固定印字枠11を省略し、軟質弾性材8を直に摺動枠2上に装着しても機能としては何ら変わらない。

(作用)

次に二の考案の作用を説明する。

固定印字体9は軟質弾性材8を介して摺動枠2に取りつけられるため、押印時に固定印字体9自体の弾性と相俟ち軟質弾性材8が柔軟に変形し、固定印字面13は上下傾動自在となる。

又、可変印字面は、無端印字ベルトが複数個の切欠部10を形成した受台4で支承されるため押印時に可変印字面はおよび無端印字ベルトを介して受台4に外力が加わるとその外力の強さおよび方向に応じて柔軟に上下傾動する。

これは受台4に切欠部10を形成することにより受台4に弾索性を付与することが可能になるためであり、特に切欠部10を図示する如く互い違いの方向にその開口部が位置するように形成すること。又3図に図示する如く押印面が左側に傾いた時は又3図の左図の如く、押印面が右側に傾いた時は又3図の右図の如く、又、傾きの生じない時は又3図の中央図の如く変形させることが出来る。

この場合、受台4は切欠部10の形成位置、巾、形状、傾斜等を適当に選定することによって、無端印字ベルトには適当な張りを付与しながら支承し、又、外力に対してはその方向大きさに応じて柔軟に追従変形させることが可能になる。

以上の如く構成することにより、固定印字体9および無端印字ベルトが各々独立に上下傾動自

柱となり、押印時に固定印字面におよび可変印字面はを紙面に自動的に倣わせることが可能になる。

(実施例)

この発案の実施例を図面を参照しながら説明する。

第1実施例

第1図はこの発案の第1実施例を示す部分断面図、第2図は同じ第1実施例を示す分解斜視図である。

第1実施例では摺動枠2の上部に固定印字枠11を係合装着し、その内側に軟質弾性材8を貼着しさらに7の上部に固定印字体9を各々の開口部すなわち透孔17がそろうように貼着している。

この際固定印字枠11に設けた突起部14を摺動枠2に設けた挿入穴15に挿入するこにより容易に位置決めが可能となり、さらに固定印字枠11は美観を向上するよう働く。

しかし、これを省略し軟質弾性材8を直に摺動枠2上に装着しても機能としては何ら変わらないことは前述した通りである。

さらに受台4を門型枠3の先端部間に係止架設し、無端印字ベルト7を該受台4と門型枠3の中央部にある日付変更ドラム6間に張架し、ダイヤル軸5とダイヤル軸穴16と日付変更ドラム6とを連架して遊嵌する。受台4に形成された切欠部10は受台4を前述の如く変形自在にする。

変2実施例

変4図は二の発案の変2実施例を示す斜視図である。変2実施例では門型枠3の両側に設けられたダイヤル軸穴16の下部に図示の如く切欠部10を形成している。その他の構成は変1実施例と同じである。この変2実施例のものである変1実施例と比較して受台4および門型枠3の各切欠部10の弾発作用が相俟って、さらに柔軟性が増し受台4の上下動ストロークが増大するようになる。

尚、変2実施例において、受台4に切欠部10を設けず門型枠3の先端部に緩衝して門型枠3の切欠部10の弾発作用により受台4に支承される可変印字面13を上下動自在に動作させることが出来る。

(効果の效果)

本発案は、摺動枠2上面に軟質弾性材8を介して固定印字体9を取りつけることにより固定印字面12を上下傾動自在ならしめ、一方、受台4の所要位置に互い、違いの方向より複数の切欠部11を設けることにより受台素材に弾発性を付加し、無端印字ベルト7に張りを付与して支承すると同時に可変印字面13を上下傾動自在ならしめることが出来るという極めて簡単な構造で製作が容易で、しかも耐久性のある日付印を提供出来るという効果を生じる。

本発案の日付印を使用することにより、粗面あるいは堅い机上に直接置かれた紙面に押しつけても、又、若干押印角度に狂いを生じても、極めて柔軟性のある快適感をもち、確実に鮮明な押印を行なうことが出来る、さらに固定印字体9および無端印字ベルト7が各々上下傾動自在であるため、固定印字面12と可変印字面13とが厳密に一致したとしてもよいという効果を生じ、受台4に切欠部10を設け適度の反発性を持たせて無端印字ベルト7を張

架させることにより、無端印字ベルトが若干弛緩しても常に適切な張り具合となるよう自己調節作用を生ぜしめると共に、無端印字ベルトの回転時において、ゴム印字部が変形しにくいため抵抗となるのであるが、その時受台4が適度に變形するため軽快に回転するという効果も生じる。

本考案は、以上の効果が、受台4に複数の切欠部10を特に互い遠い方向にその開口部を形成するように設けることにより可能になったという。実験によって意外の効果を見出し目的の達することを知った実用効果の大きなものであり産業に寄与する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の日付印の第1実施例を示す部分断面図、第2図は本考案の第1実施例を示す分解斜視図、第3図は本考案の受台の動作状態を示す斜視図、第4図は本考案の第2実施例を示す斜視図である。

1はケース本体、2は摺動枠、3は門型枠、

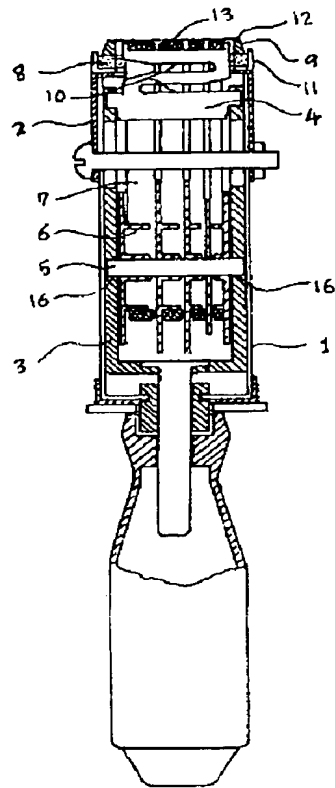
10

4は受台、5はダイヤル軸、6は日付変更ドラム、7は無端印字ベルト、8は軟質弾性枝、9は固定印字体、10は切欠部、11は固定印字枠、12は固定印字面、13は可変印字面、14は突起部、15は挿入穴、16はダイヤル軸穴、17は透孔。

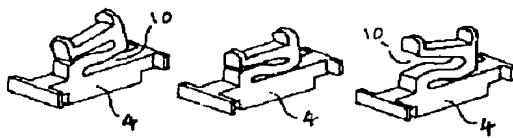
実用新案登録出願人 佐々木 福三

面 図

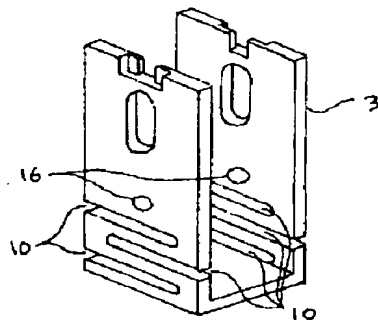
第1図



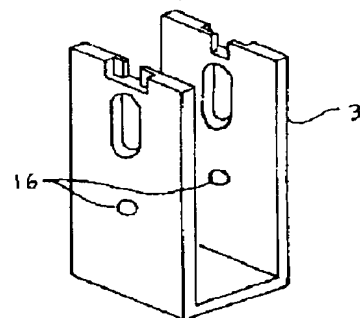
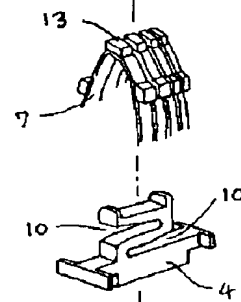
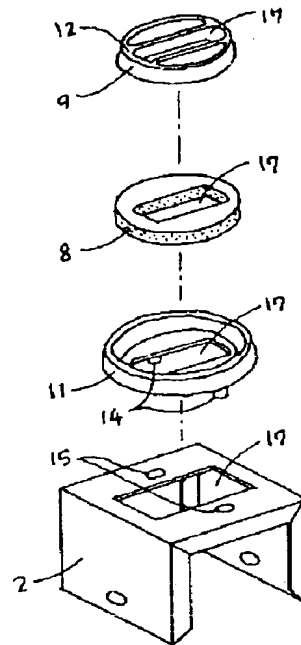
第3図



第4図



第2図



- 1: 本体
- 2: 揺動棒
- 3: 門型棒
- 4: 後台
- 5: 回転軸
- 6: 日付変更カム
- 7: 照準印字ベルト
- 8: 弾簧
- 9: 固定印字体
- 10: 切欠部
- 11: 固定印字棒
- 12: 固定印字面
- 13: 可変印字面
- 14: 突起部
- 15: 挿入穴
- 16: 回転軸穴
- 17: 通孔

756

実用新案登録出願人

佐々木 福三

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.